

続いて

[小連禱]

輔祭 我等復又安和にして主に禱らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、
 諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の
 生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に
 司祭 蓋天の衆軍爾を讚揚す、我等も光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、
 (詠) 「アミン」

誦経 [エクサポスティラリー] (2-4 週共通)

神として星を以て天を飾り、爾の諸聖人を以て全地を照らしし萬有の造成主よ、
 爾を歌ふ者を救ひ給へ。

光栄は父と子と聖神に帰す。

神として死者及び生者を司る救世主よ、爾の諸僕を選ばれたる者の居處に安んぜ
 しめ給へ、蓋、彼等は罪を行ひたりとも、爾より離れざりき。

今も何時も世々にアミン。

諸天使の楽しみ、憂ふる者の喜び、ハリストティアニン等の轉達者たる童貞女、主
 の母よ、我等を護りて、永遠の苦しみより救ひ給へ。

[讚揚のスティヒラ]

誦経 第 148 聖詠

天より主を讚め揚げよ、讚歌は爾神に帰す。天より主を讚め揚げよ、至高に彼を讚
 め揚げよ、讚歌は爾神に帰す。其悉くの天使よ、彼を讚め揚げよ、其悉くの軍
 よ、彼を讚め揚げよ、讚歌は爾神に帰す。日と月よ、彼を讚め揚げよ。悉くの光
 る星よ、彼を讚め揚げよ。諸天の天と天より上なる水よ、彼を讚め揚げよ。主の
 名を讚め揚ぐべし、蓋彼言ひたれば、即成り、命じたれば、即造られたり、
 彼は之を立てて、世世に至らしめ、則を与へて之を踰えざらしめん。地より主を讚
 め揚げよ、大魚と悉くの淵、火と霰、雪と霧、主の言に従ふ暴風、山と悉く
 の陵、果の樹と悉くの栢香木、野獣と諸の家畜、匍ふ物と飛ぶ鳥、地の諸王
 と萬民、牧伯と地の諸有司、少年と處女、翁と童は、主の名を讚め揚ぐべし、蓋
 惟其名は高く擧げられ、其光栄は天地に遍し。彼は其民の角を高くし、其諸聖人、
 イズライリの諸子、彼に親しき民の榮を高くせり。

第 149 聖詠

新たなる歌を主に歌え、其の讚美は聖者の會に在り。イズライリは己の造成主の
 為に楽しむべし、シオンの諸子は己の王の為に喜ぶべし。舞を以て彼の名を讚め

揚げ、鼓と琴とを以て彼に歌うべし、蓋主は其の民を恵み、救いを以て謙卑の者を榮えしむ。諸聖人は光榮に在りて祝い、其の榻に在りて歎ぶべし。其の口には神の讚榮あり、其の手には諸刃の劍あるべし、仇を諸民に報い、罰を諸族に行い、其の諸王を索にて縛り、其の諸侯を鉄の鎖にて繋ぎ、彼等の為に記されし審判を行わん為なり。斯の榮えは其の悉くの聖人に在り。

第150 聖詠 (ステヒラの数によって調整すること)

神を其の聖所に讃め揚げよ、彼を其の有力の穹蒼に讃め揚げよ。

ステヒラ1 八調經のその週の調から致命者の

其の権能に依りて彼を讃め揚げよ、其の至厳かなるに依りて彼を讃め揚げよ。

ステヒラ2 八調經のその週の調から致命者の

喇叭の聲を以て彼を讃め揚げよ、琴と瑟とを以て彼を讃め揚げよ。

ステヒラ3 八調經のその週の調から致命者の

鼓と舞とを以て彼を讃め揚げよ、絃と簫とを以て彼を讃め揚げよ。

ステヒラ4 八調經のその週の調から致命者の

和聲の鉢を以て彼を讃め揚げよ、大聲の鉢を以て彼を讃め揚げよ。

ステヒラ5 八調經のその週の調から致命者の

凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ

ステヒラ6 八調經のその週の調から致命者の

光榮は父と子と聖神^oに歸す、

ステヒラ 死者の安息の

今も何時も世世に、「アミン」

生神女讚詞

主我等の神よ、光榮は爾に歸す、我等光榮を爾父と子と聖神^oに獻ず、今も何時も世世に、「アミン」

光榮は爾我等に光を顕せる主に歸す。

誦經 **【頌詠】** 至高きには光榮神に歸し、地には平安降り、人には恵臨めり。主天の王、神父全能者よ、主獨生の子イイスス・ハリストス、及び聖神^oよ、爾の^{おおい}大なる光榮に因りて、我等爾を崇め、爾を讃め揚げ、爾を伏し拜み、爾を尊み歌ひ、爾に感謝す。主神よ、神の^{こひつじ}羔、父の子、世の罪を任ひし者よ、我等を憐み給へ、世の^{もろもろ}諸の罪を任ひし者よ、我等の^い禱を納れ給へ。父の右に坐する者よ、我等を憐み給へ。爾は^{ひとり}獨聖なり、爾は^{ひとり}獨主イイスス・ハリストス、^{かみちち}神父の光榮を顕す者なればなり、「アミン」

我日々に爾を讃め揚げ、爾の名を世世に崇め歌はん。

主よ、爾は世世我等の^{かくれが}避所たり。

我曾て言へり、主よ、我を憐み、我が^{たましい}靈を醫し給へ、我罪を爾に得たればなり。

主よ、爾に趨り附く、爾の旨を行ふを我に教へ給へ、爾は我の神、生命の源は爾に在ればなり、我等爾の光に於て光を觀ん。憐を爾を知る者に恒に垂れ給へ。

主よ、我等を守り、罪なくして此の日を度らせ給へ。主吾が先祖の神よ、爾は崇め讃められ、爾の名は世世に尊み歌わる、「アミン」

主よ、爾を待むに因りて、爾の憐を我等に垂れ給へ。主よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓へ給へ。主宰よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に悟らせ給へ。

聖なる者よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠にて我を照らし給へ。

主よ、爾の憐は世世に在り、爾の手の造りし物を棄つる勿れ。讃は爾に歸し、歌は爾に歸し、光榮は爾父と子と聖神^oに歸す、今も何時も世世に、「アミン」。

【増連禱】(通常の)

- 輔祭 我等主の前に吾が朝の禱を増し加へん、 (詠) 主憐めよ
- 輔祭 神よ、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ
- 輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
- 輔祭 平安の天使、正しき教導師、吾が靈體の守護者を賜はんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
- 輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
- 輔祭 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
- 輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
- 輔祭 我等の生命の終が「ハリストティアニン」に適ひ、疾なく、恥なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、 (詠) 主賜へよ
- 輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に
- 司祭 蓋爾は仁慈と慈憐と仁愛との神なり、我等光榮を爾父と子と聖神^oに献ず、今も何時も世世に、 (詠) 「アミン」
- 司祭 衆人に平安 (詠) 爾の神^oにも
- 輔祭 我等の首を主に屈めん (詠) 主爾に
- 司祭 蓋我が神よ、我等を憐みて救ふこと爾に歸す、我等光榮を爾父と子と聖神^oに献ず、今も何時も世世に、 (詠) 「アミン」

誦經 【挿句のスティヒラ】(その週の調の死者のスティヒラー八調經)
 【致命者讚詞】
 【生神女讚詞】

誦經 至上者よ、主を讚榮し、爾の名に歌ひ、爾の^{あわれみ}憐を朝に宣べ、爾の^{まこと}眞を夜に宣ぶるは美なる哉。(2回)

誦經 **【聖三祝文】【至聖三者】【天主經】**

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。(三次)

光榮は父と子と聖神[°]に歸す、今も何時も世世に、「アミン」

至聖三者よ、我等を憐め、主よ、我等の罪を^{いさぎよ}潔くせよ、主宰よ、我等の^{あやまち}愆を赦せ、聖なる者よ、^{のぞ}臨みて我等の病を癒し給へ、^{ことごと}悉く爾の名に因る。

主憐めよ (三次)

光榮は父と子と聖神[°]に歸す、今も何時も世世に、「アミン」

天に在す我等の父よ、願くは爾の名は聖とせられ、爾の国は^{きた}來り、爾の旨は天に行はるるが如く地にも行はれん、我が日用の糧を今日我等に與へ給へ、我等に^{おいて}債ある者を我等^{ゆる}免すが如く、我等の^{おいて}債を免し給へ、我等を^{いざない}誘に導かず、猶我等を凶惡より救ひ給へ。

司祭 ^{けだし}蓋国と権能と光榮は爾父と子と聖神[°]に歸す、今も何時も世世に、
誦經 「アミン」

【トロパリ】2調

(詠) 使徒、致命者、預言者、成聖者、克肖者及び諸義人、善く戦を終へて信を守りし者よ、祈る、仁慈なる救世主の前に勇みを保つ者として、彼に我等の^{たましい}靈の救はれんことを祈り給へ。

使徒、致命者、預言者、成聖者、
克肖者及び諸義人、善く戦いを終えて信を守りしものよ、
いのる、仁慈なる救世主の前に勇みを保つものとして、
かれに 我等の^{たましい}靈の救われんことを祈りたまへ。

【重聯禱】

- 輔祭 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ。爾に禱る、聆き納れて憐めよ、
(詠) 主憐めよ、(三次)
- 輔祭 我が国の天皇及び国を司る者の為に禱る、
(詠) 主憐めよ、(三次)
- 輔祭 又教会を司る () 主教 ()、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。
(詠) 主憐めよ、(三次)
- 輔祭 又恒に記憶せらる福たる此の聖堂の建立者、及び已に寝りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の為に禱る、
(詠) 主憐めよ、(三次)
- 輔祭 又神の諸僕此の聖堂の兄弟に、慈憐・生命・平安・壮健・救贖・眷顧・寛宥及び諸罪の赦を賜はんが為に禱る、
(詠) 主憐めよ、(三次)
- 輔祭 又此の至尊なる聖堂に物を献り、善業を行ひ、之に勞し、之に歌ひ、及び此に立ちて爾の大にして豊なる憐を仰ぎ望む者の為に禱る
(詠) 主憐めよ、(三次)
- 司祭 蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神^o に献ず、今も何時も世世に、
(詠) 「アミン」
- 輔祭 睿智
(詠) 福を降せ
- 司祭 永在の主ハリストス我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、
(詠) 「アミン」神よ、我が国の天皇と正教会の教えと正教のすべてのハリスティアニンを永く守り給へ。
- 司祭 至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給へ、
(詠) ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。
- 司祭 ハリストス神我等の恃みよ、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、
(詠) 光榮は父と子と聖神^o に歸す、今も何時も世々にアミン、主憐れめよ (三次)、福を降せ
- 司祭 ハリストス我等の眞の神は、其至浄なる母、光榮にして讃美たる聖使徒、光榮なる凱旋の聖致命者、克肖捧神なる吾が諸神父、聖 (本堂及び本日聖人)、聖にして義なる神の祖父母イオアキム及びアンナ、及び諸聖人の祈禱に因りて我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり。
(詠) アミン、
〔萬壽詞〕 神よ、我が国の天皇を、および国を司る者、我等の () 主教 ()、および正教のハリスティアニン等を幾とせにも護り給へ。